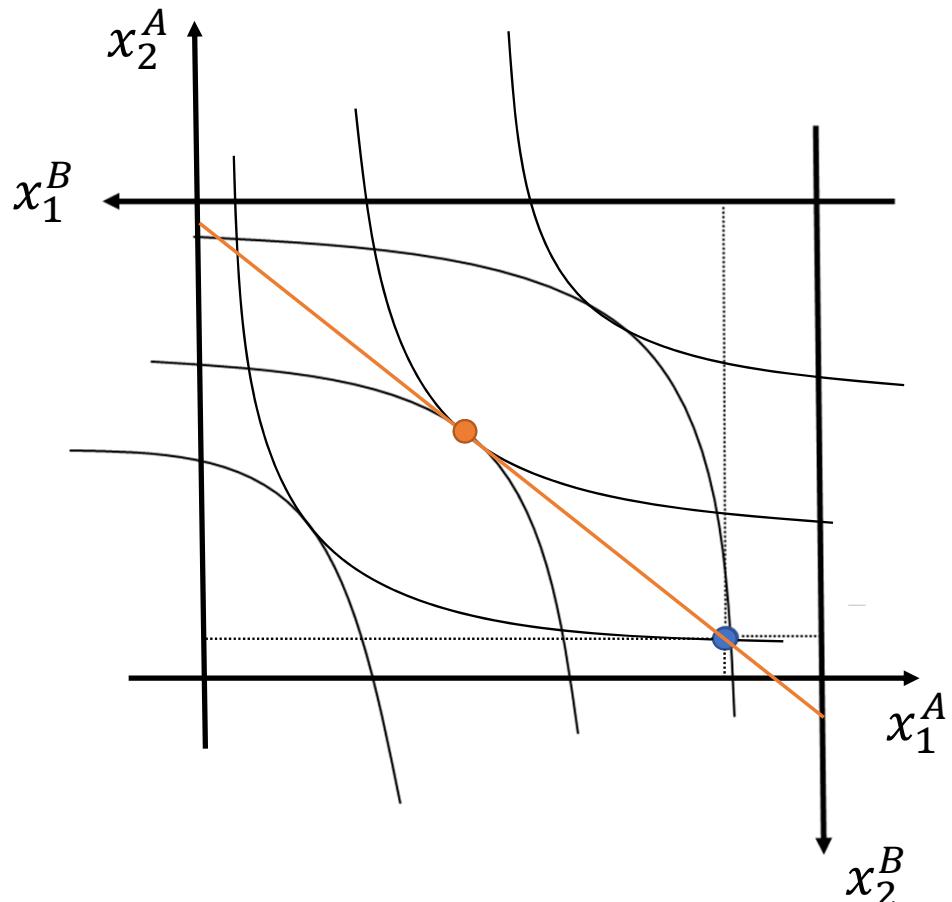


ミクロ経済学A/現代経済学I 第14回 「一般均衡分析②」

法政大学 経済学部 平井俊行

ワルラス均衡 in エッジワースボックス(再掲)



オレンジの予算制約線の傾き = 価格比になるような予算制約線のもとで、オレンジの消費点は

- 消費者1の需要点であり、
- 消費者2の需要点であり、
- 財1、財2について需要・供給が一致している

⇒ ワルラス均衡

ワルラス均衡の性質

- ・一般均衡で考えたときの市場の結果（均衡）が良いものかどうかを考えるのが目的。
- ・純粹交換経済で主要な良さの考え方として パレート効率性 がある。

パレート効率性

- ある配分 $y = ((y_1^A, y_2^A), (y_1^B, y_2^B))$ が配分 $x = ((x_1^A, x_2^A), (x_1^B, x_2^B))$ よりパレート(基準の意味で)優位であるとは、
 - どちらの消費者も配分 y における消費を配分 x における消費と 同等以上 に好み、
 - しかも、少しだけでもどちらか一方は 配分 y における消費を配分 x における消費より(無差別でなく厳密に)好むこと。
- 財を再配分(交換)することで、どちらの消費者もより悪い消費になることはなく、少なくとも一方の消費者はより 好き 消費を得ることができる。
 - 誰にも損をさせず誰か1人だけが2倍になります というこ

パレート効率性

配分 $x = \left((x_1^A, x_2^A), (x_1^B, x_2^B) \right)$ がパレート効率的であるとは、

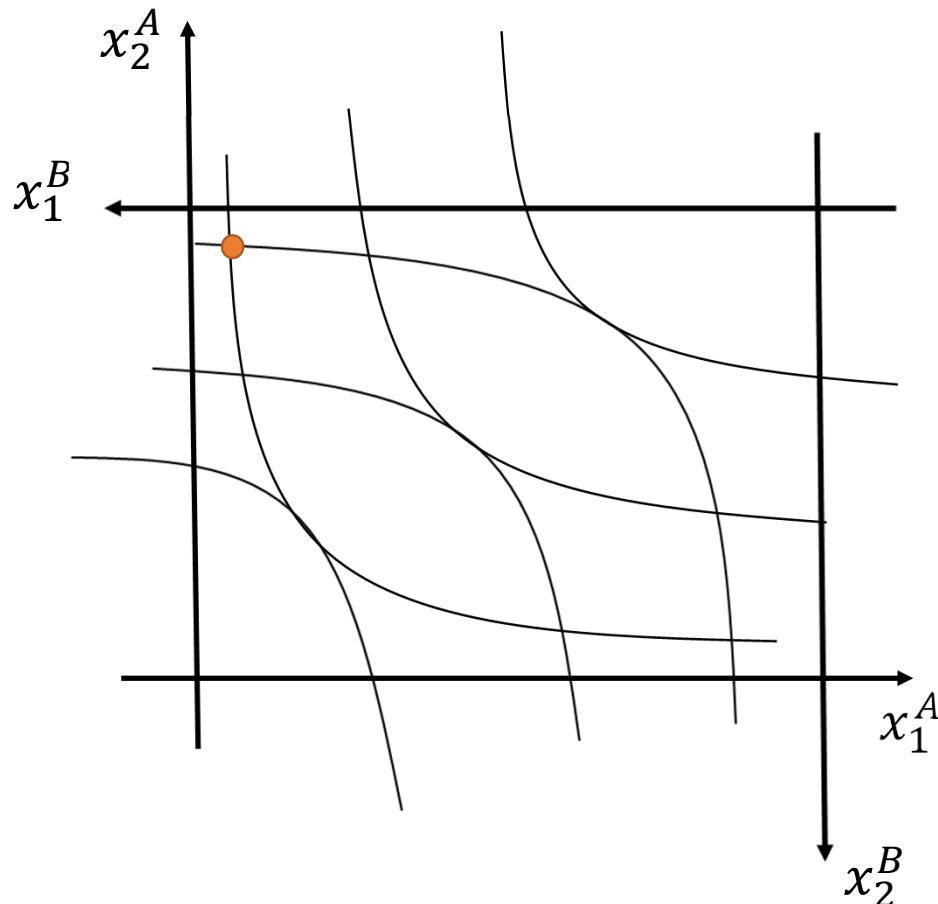
- x が 実行可能配分 であり、かつ
 - x より パレート優位な実行可能配分 が存在しないこと。
-
- 一方の消費者により好ましい消費を与えるためには、もう一方の消費者の消費を悪くしなければならない。

パレート効率性

- 良いところ
 - 多くの人が納得・賛成できる。
- 悪いところ
 - 無数に存在し、中には感覚的に「良い」とは思えないものまで含んでしまう。

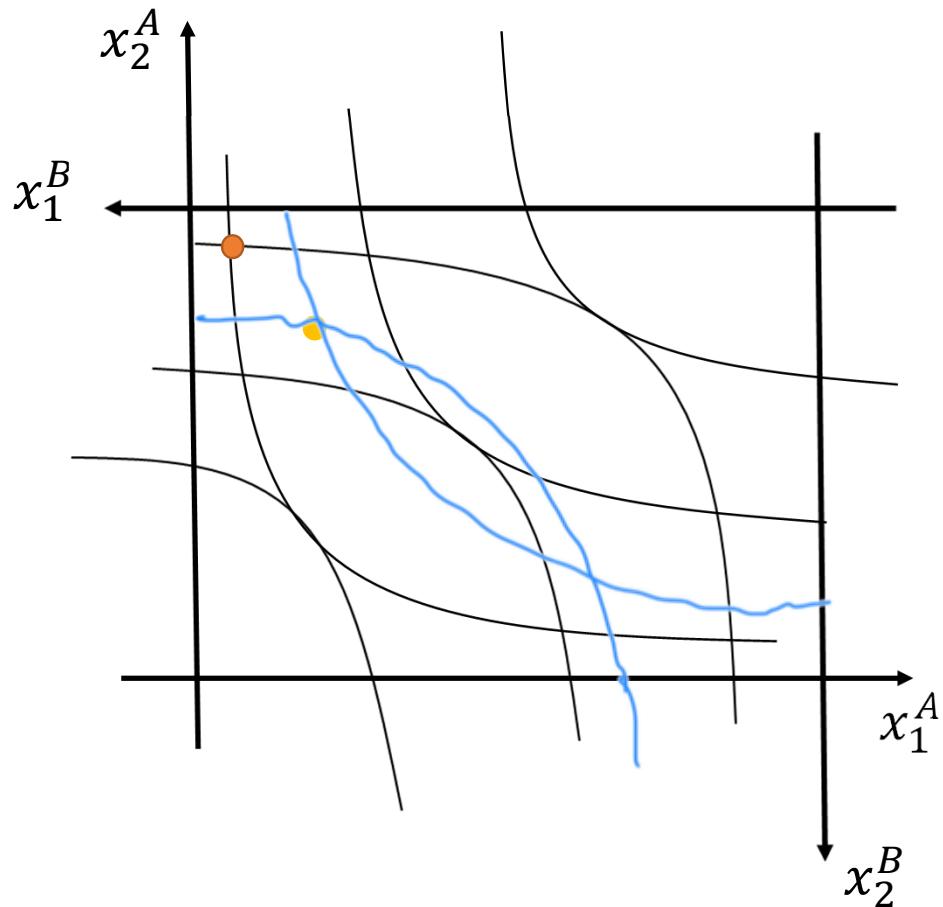
パレート効率的だから良い配分、ということではなく、
良い配分だというなら(最低限)パレート効率的であるべきだ、
くらいで考えておいたほうが良い。

パレート効率性とエッジワースボックス



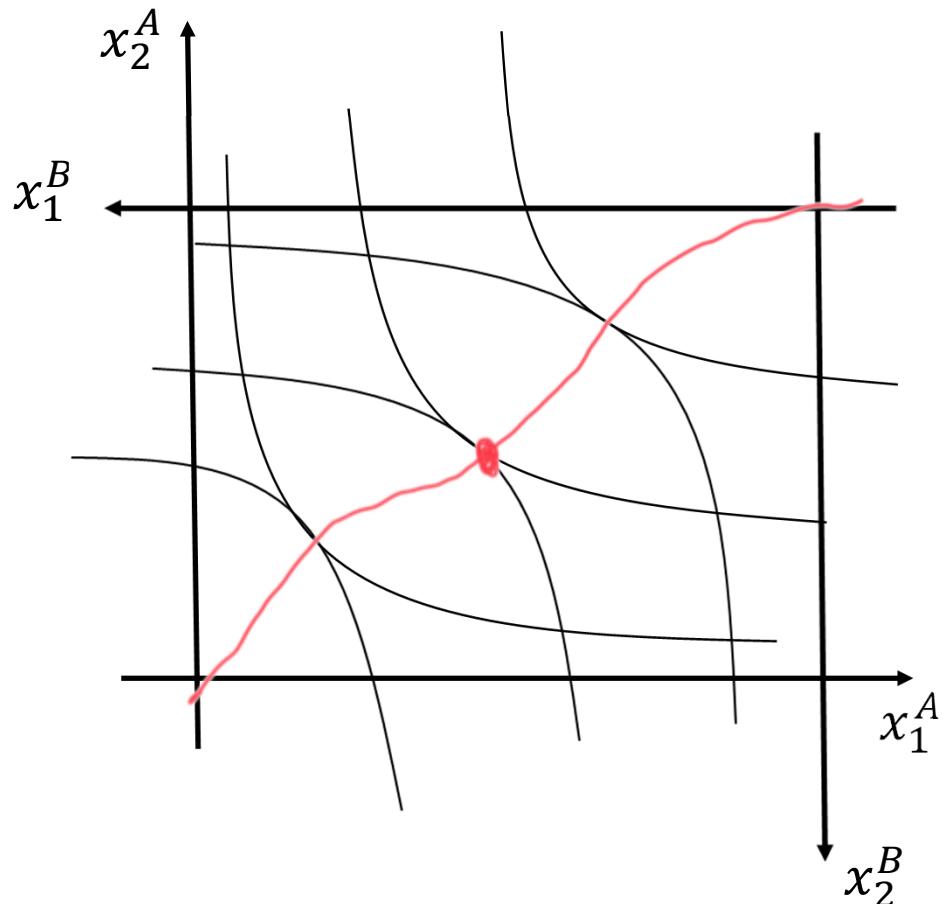
- オレンジの配分はパレート効率的か？
- 矢印方向に再配分することでどちらもより好ましい配分になる。
- パレート効率的ではない

パレート効率性とエッジワースボックス



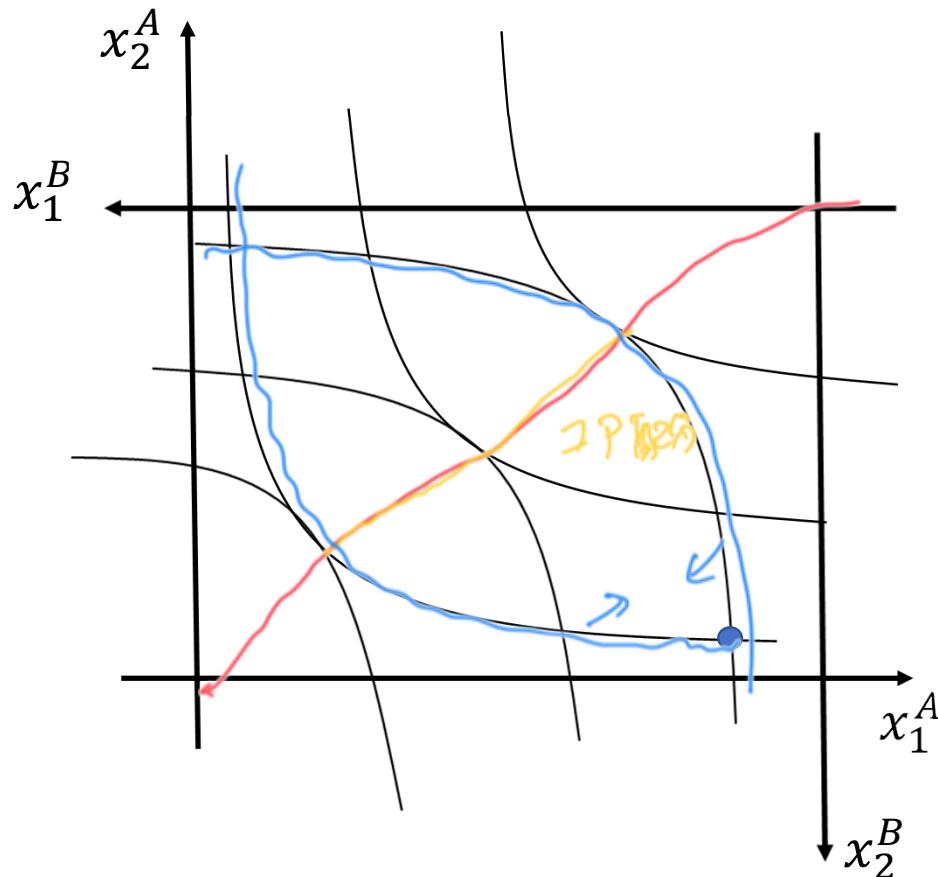
- 黄色の配分はパレート効率的か？
- この配分を通るそれぞれの消費者の無差別曲線(青)を引くと左のようになる。
- 矢印方向に再配分することでどちらもより好ましい配分になる。
- パレト効率的ではない

パレート効率性とエッジワースボックス



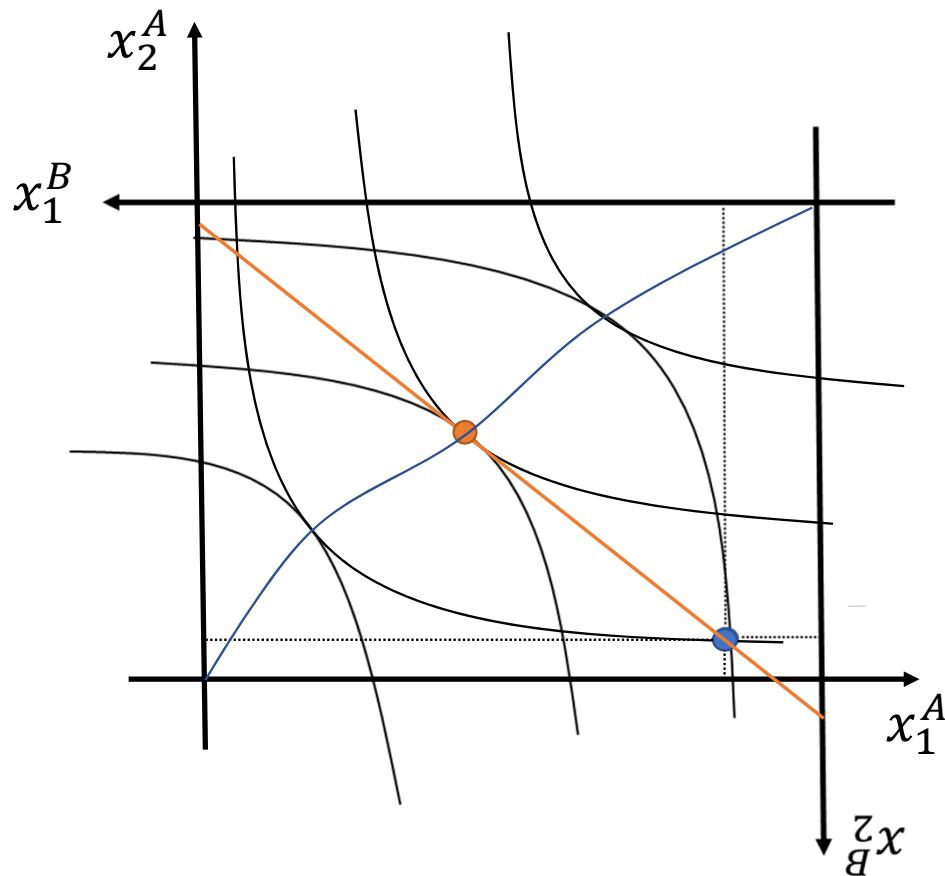
- 消費者の無差別曲線同士が接する配分がパレート効率的。
- エッジワースボックスにおけるパレート効率的な配分を結んだ曲線を **契約曲線** という。

コアとエッジワースボックス



- 初期保有が青の配分で与えられているとする。
- パレート効率的な配分のうち、どちらの消費者にとっても初期保有と同等以上に望ましい配分を **コア配分** という。
- パレート効率的な配分の中で、どちらの消費者も交換に **参加** する動機を持つような配分。

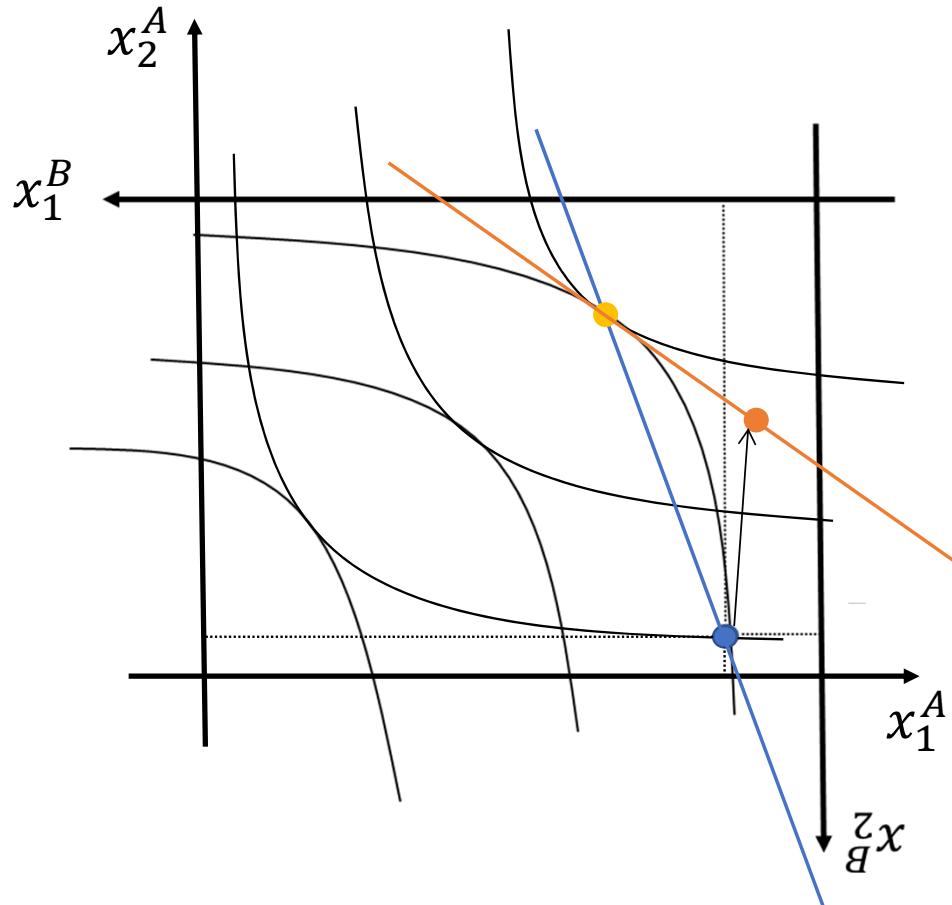
厚生経済学の第一基本定理



フルラス均衡配分は
パレート効率的、

- フルラス均衡配分は、それぞれの消費者の無差別曲線が接しているところ。
⇒ **契約曲線**に含まれる。
- フルラス均衡配分は **コア配分**にもなる。

厚生経済学の第二基本定理



任意のパレート効率的配分は、
適切な初期保有の移転を行えば、
ワルラス均衡配分として達成できる。

- 黄色の配分はパレート効率的だが、現在の初期保有ではワルラス均衡ではない。
 - そもそも需要点にならない。
- 初期保有をオレンジの点になるように移転すると黄色の配分はワルラス均衡。
 - オレンジの予算制約線の傾きがワルラス均衡価格比。

厚生経済学の基本定理

- 第一基本定理は、市場は少なくとも **パレート基準** では「良い」配分を達成することを示している。
 - 市場は資源配分機構として最低限よい性質を満たしている。
- 第二基本定理は、パレート基準以外の厚生基準を用いてパレート効率的な配分の間に優劣が生じた際に、より良い配分を初期保有の移転 **(所得再分配)** 政策によって達成しうる、ということ。
 - ただし、いろいろと注意が必要。

厚生経済学の基本定理

- 初期保有の移転は一括移転でなければならない。
 - 所得税や消費税など、意思決定をゆがめる移転政策の場合は非効率性が生じてしまう。
- どのように移転額を決定すればよいのかはわからない。
- それでも、よりマシなほうへ(おそらく)市場の結果を近づけるための指標にはなりえる。